

あるクリスマスの日の出来事をお話ししましょう。これはアメリカで、本当にあったお話です。

1. アメリカのある教会に、優しい牧師先生と、元気なお友達がおりました。

牧師「さあみんな、もうすぐクリスマスだね。子供教会学校では降誕劇をするよ。イエス様がお生まれになったことを、みんなで劇にして、教会の人たちに見てもらおう！」

マイケル「わ〜い、先生、それじゃボクはヨセフさんの役をやりたいですっ！」

エイミー「先生、わたしはマリアさんの役がやりたいわ〜！」

こうしてマイケルくんはヨセフさん役を、エイミーちゃんはマリアさんの役を、そして他にも天使や羊飼いや博士たちの役が次々と決まっていきました。

2. そのとき、今まで黙っていたクリ夫くんが前に出てきて言いました。

クリ夫「あのお〜先生、オイラも何かやりたいよお。」

牧 師「そうだねえ、クリ夫くんにあっている役は何かなあ？」

3. 牧師先生は、実はちょっと困ってしまったんです。なぜかって言うと、クリ夫くんはみんなの前でお話するのが大の苦手。何か役をやってもらうにしても、上手に話すことはできないからです。

それでも優しい牧師先生は、何かクリ夫くんでも出来る役がないものかと、一生懸命に考えました。

4. **牧師**「クリ夫くん、宿屋の主人の役はどうだい？ マリアさんとヨセフさんは、ベツレヘムで宿屋を探すんだけど、なかなか見つからないんだ。宿屋はもう満員だったからね。だからその宿屋の主人は、『ダメです、ダメです、うちはいっぱいです』って言って、マリアさんとヨセフさんを断るんだけど、その宿屋の主人の役をやってほしいんだよ。できるかな？」

クリ夫「先生ありがとう。オイラ、宿屋の主人の役を一生懸命やるよっ！」

クリ夫くんは役をもらって、本当に喜びました。

優しい牧師先生は、セリフが短い宿屋の主人ならクリ夫くんでも出来るだろうと考えてあげたのでした。

5. それからクリ夫くんは、家に帰って毎日猛練習！ 毎日毎日「ダメです、ダメです、うちはいっぱいです」を一生懸命繰り返しました。

こうして何日も練習したおかげで、お話することが苦手なクリ夫くんも、きちんとセリフが言えるようになりました。

6. こうしてクリスマス礼拝の日を迎え、子供たちの降誕劇が始まりました。牧師先生は、クリスマスツリーの影でみんなを見守っています。

牧師「マイケルくんのヨセフも、エイミーちゃんのマリアも、みんな上手くやってるやってる。教会の人たちも喜んでいるよ。さあ、最後まで頑張れよお〜。

こうしてマリアとヨセフが旅をして、ベツレヘムまでやってきて宿屋を探すという場面になりました。そうです、いよいよクリ夫くんの登場です！

7. クリ夫くんは緊張しながらも・・・

クリ夫「ダメです、ダメです、うちはいっぱいです・・・」

よかったあ〜、うまくセリフを言えたみたいですね。牧師先生も、ようやく安心したことでしょう。

8. セリフを無事に言い終えたクリ夫くんでしたが、その目には涙がいっぱいです。

緊張のあまり涙が出ちゃったんじゃないよ。宿屋の主人に断られ、トボトボと去っていくマリアとヨセフを見ていたら、たまらない気持ちになっちゃったんです。

・・・と、その時！！

9. クリ夫「ボクのお家^{うち}へおいでよっ！」・・・何とクリ夫くんは台本にはないことを言ってしまったのです！

10. マリアのエイミーちゃんもヨセフのマイケルくんも、そしてようやく安心してほっとしていた牧師先生も、目が点……。みんな、何が起こったのかしばらくわかりませんでした。

11. でもそのうち、牧師先生の目にも涙があふれてきたのです。なぜって、牧師先生にはわかったのです。

そう、心の優しいクリ夫くんが、イエス様を心の中にお迎えしようとしたということが。

イエス様を拒むことなどできない、イエス様、どうぞ心の中にお入りください・・・と、そんな温かい気持ちがクリ夫くんの口から出たのだということを、牧師先生はわかったのです。そして、牧師先生の心には、聖書のみことばが響いてきました。

「光はやみの中に輝いている」ヨハネ 1:15

イエス様はこの世の光としてお生まれくださいました。その光を、素直に心の中にお迎えすることが大切なのですね。

12. 降誕劇はメチャクチャになってしまったけれど、その年のクリスマスは、今までで一番ステキなクリスマスになりました。

それは、マイケル君の心の中にも、エイミーちゃんの心の中にも、そして牧師先生や教会の全員の心の中にも、ず〜っとず〜っと温かく残り続ける、ステキなステキな思い出となりましたとき。

おしまい。